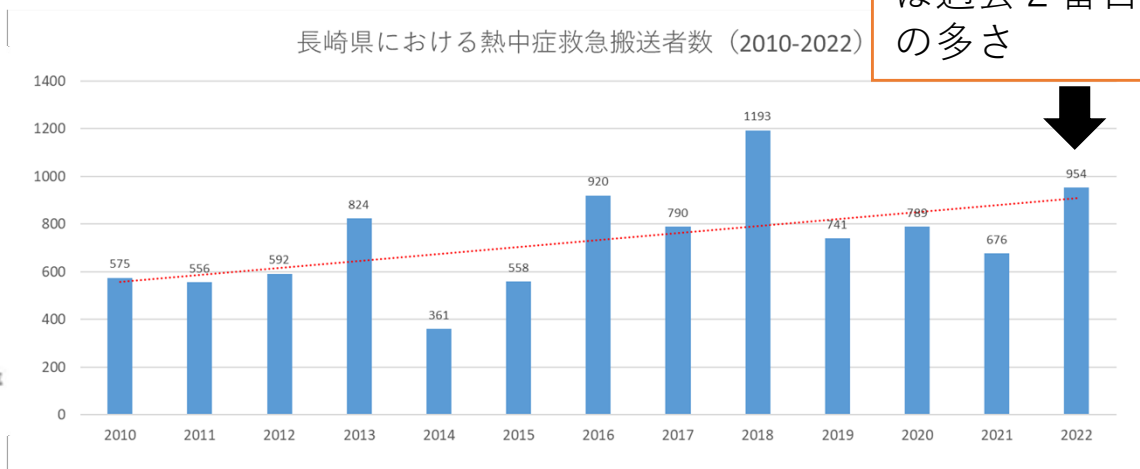
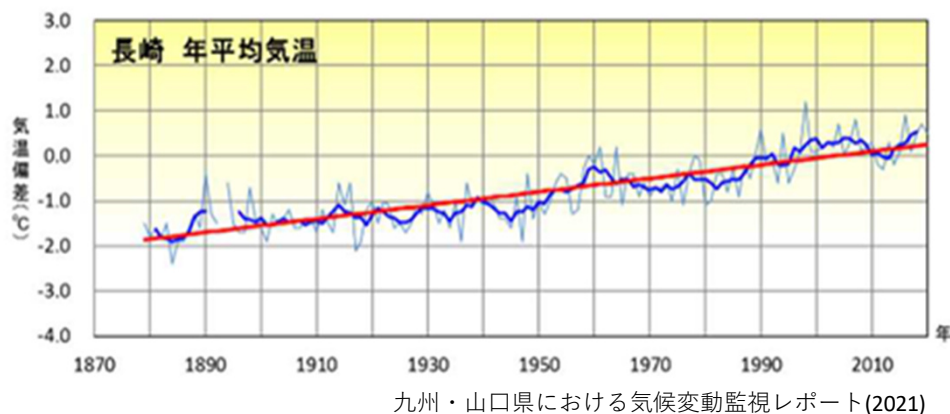


長崎県における熱中症に関する調査研究 (研究期間: R2～R4)

研究背景

直近のR4年度
は過去2番目
の多さ



全国的に熱中症患者が増加するなか、長崎県においても熱中症救急搬送者数は増加傾向にあり、対策は急務！

長崎県は離島を含め南北に長くまた地形も複雑であるため、場所によって気候が異なることが考えられます。また、地域ごとの人口や年齢層等の分布にも偏りがあることから、熱中症発生のリスクには地域特性があるものと考えられます。



本研究は、詳細な地域ごとの熱中症リスクを調査することで、効果的な熱中症予防に関する啓発を行うことを目的とします。

↑ 図中のマークは気象庁観測点（暑さ指数（WBGT）公表地点のみ抜粋）
本研究は地域ごとの熱中症リスクを調査することで、効果的な熱中症予防に関する啓発を行うことを目的としています。県内全域のデータを得るため、小学校の協力のもと気象データの観測を行いました。

研究の概要と研究項目

熱中症発生の危険性の
地域ごとの違いを明らかに

研究項目②

地域ごとの発生状況と気
象との関連性の分析

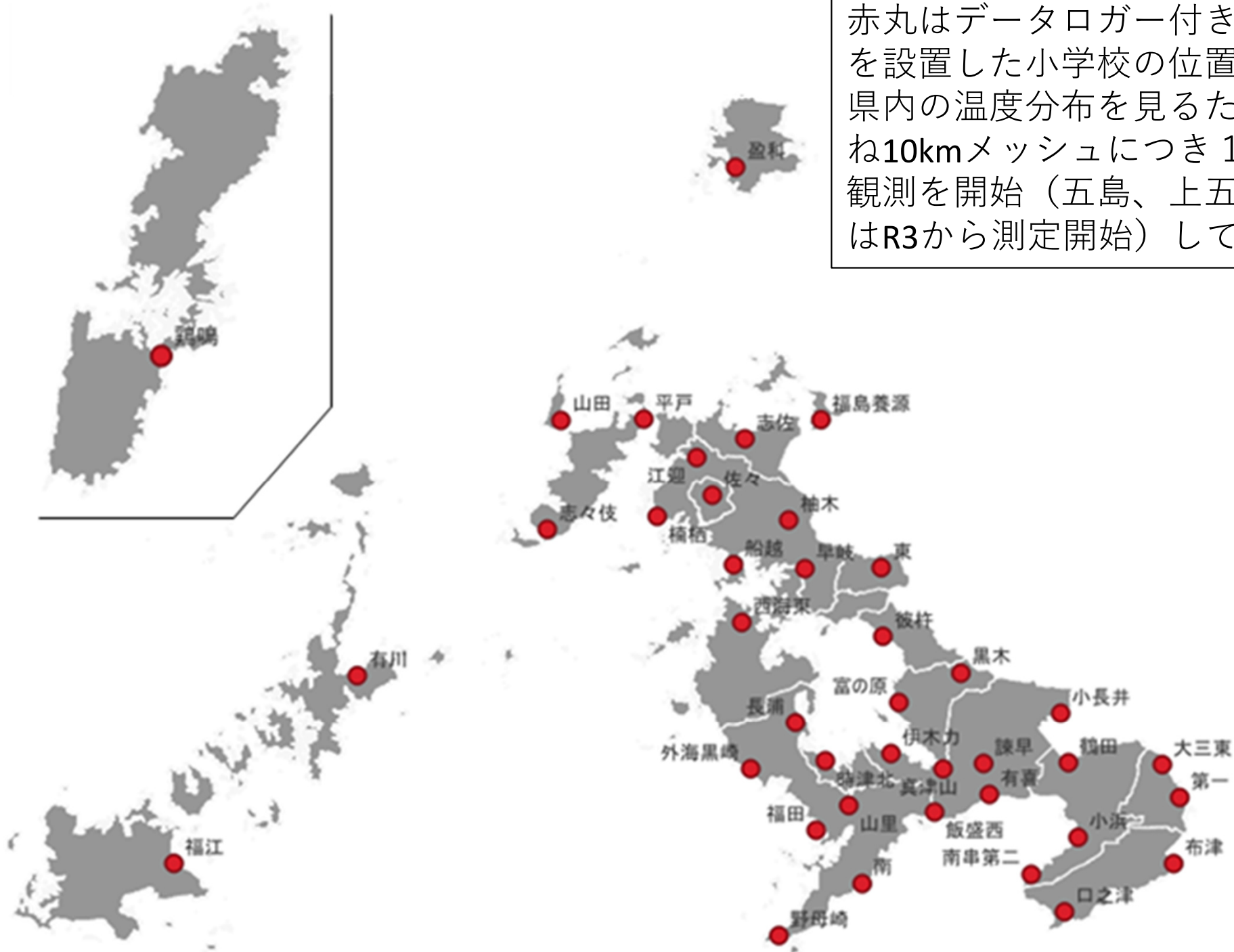
研究項目①

より詳細な気象観測デー
タの収集

研究項目③

地域の実情に応じた
注意喚起・啓発

調査地点 (R2-R4)



赤丸はデータロガー付き温湿度計を設置した小学校の位置です。県内の温度分布を見るために、概ね10kmメッシュにつき1地点で観測を開始（五島、上五島、対馬はR3から測定開始）しています。

気象データの観測方法

【気象観測】

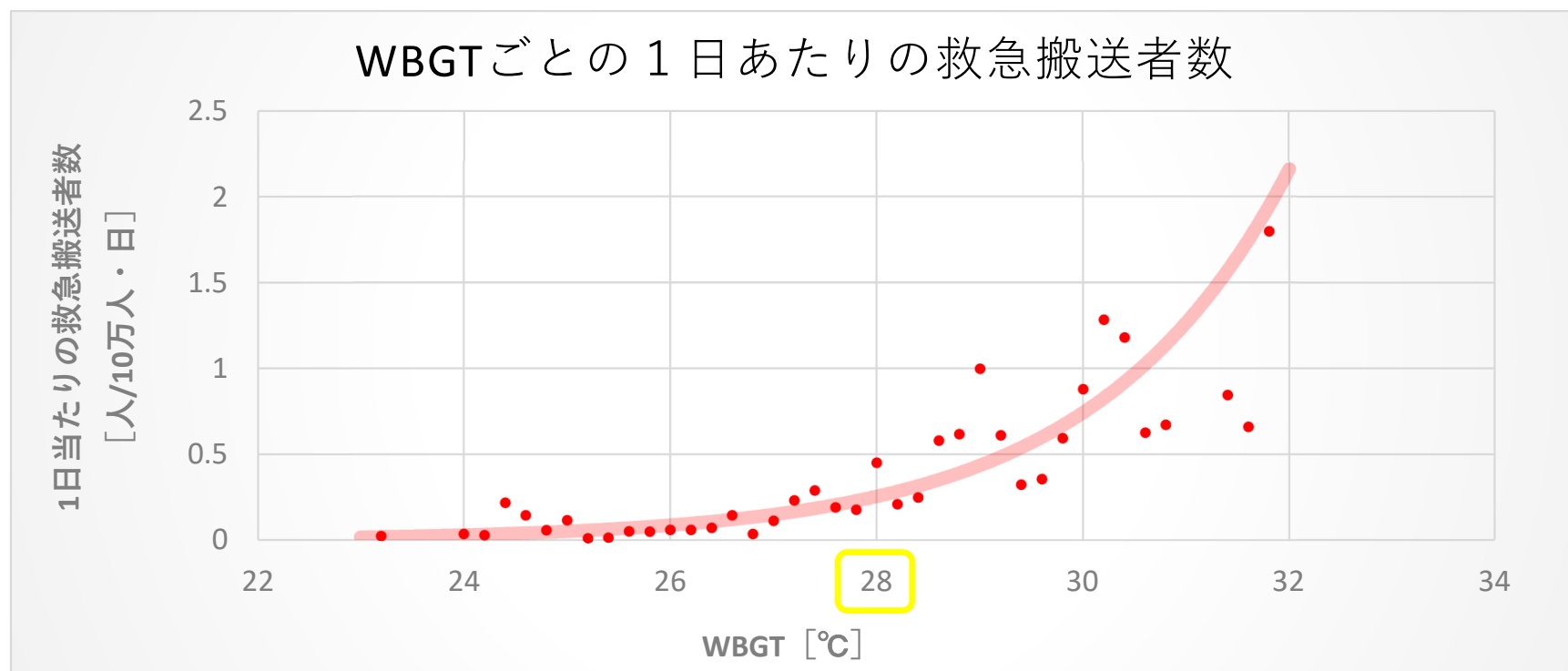
気象データ（気温、湿度）の観測には、小学校に設置されている百葉箱を利用させていただきました。



百葉箱が無い（又は老朽化している）
小学校には超小型百葉箱を設置

WBGTと救急搬送者の解析

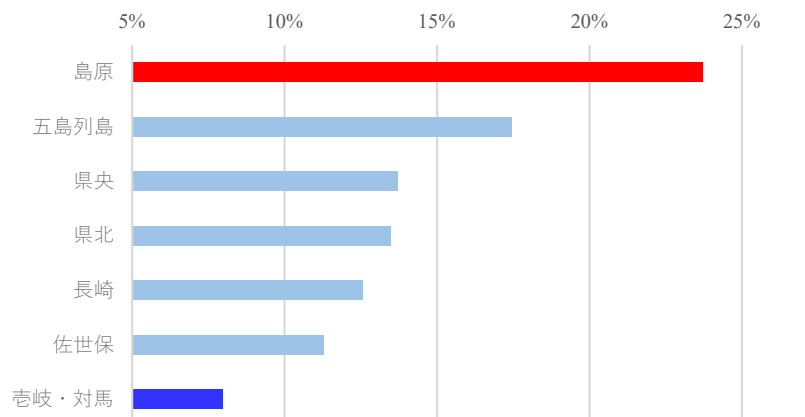
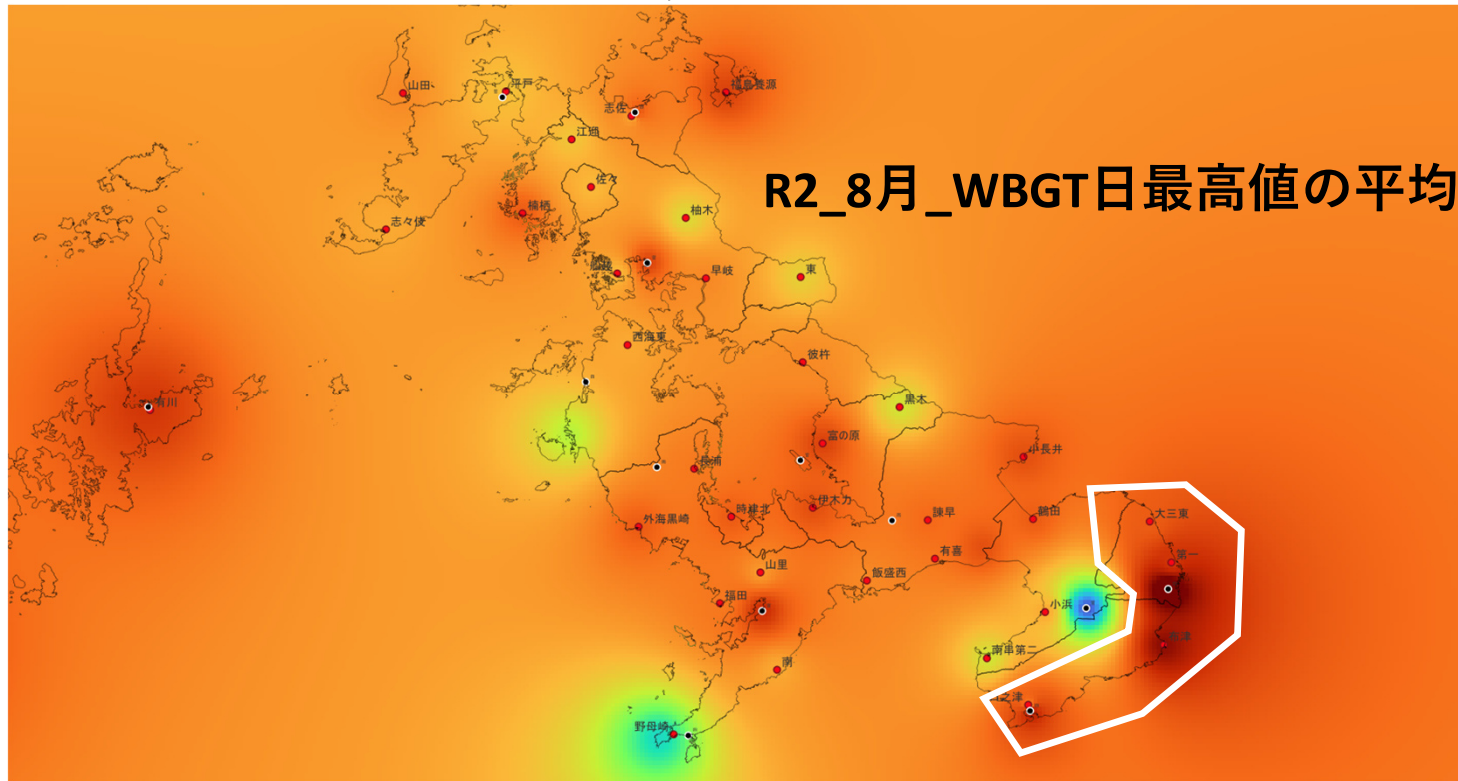
観測した気象データ等に基づいて暑さ指数（WBGT）を推計し、県内の地域ごとの暑熱特性や熱中症救急搬送者数との関係を解析しています。
得られた結果から、地域の実情に応じた効果的な熱中症予防に関する啓発を行います。



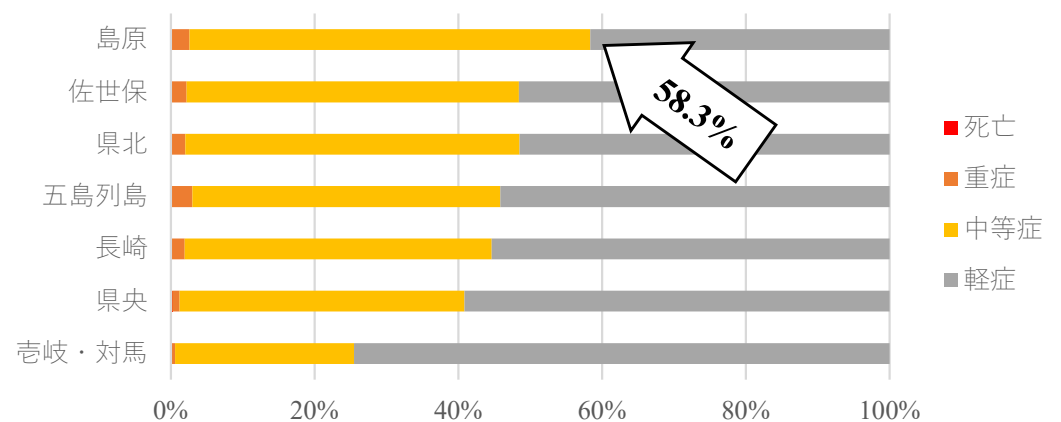
↑ 県内全体の救急搬送者数とWBGTの関係について解析した結果（一例）
一般的にWBGTが28°Cを超えたあたりから熱中症患者は増加すると言われていますが、本県においても同様の傾向が出ています。

WBGTと救急搬送者の解析 ～地域特性の一例～

島原地域の暑熱環境と熱中症の症状程度



WBGT日最高値_31°C以上の出現頻度 (R2-R4: 7月-10月)



熱中症救急搬送者の初診時の症状程度

熱中症予防のための啓発 ～島原地区～

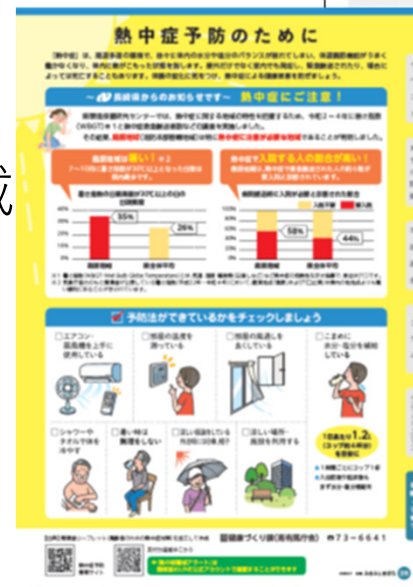
島原市・南島原市の熱中症担当部局と連携し、
以下のとおり実施

◆市広報誌へ啓発記事の掲載

広報誌7月号に研究成果に基づく啓発記事を掲載

◆一般住民を対象とした講演

島原市、南島原市において一般住民
を対象とした講演を実施



広報
みなみしまばら
7月号

島原市 : 6/8に実施

南島原市 : 6/28、9/15、9/20 に実施

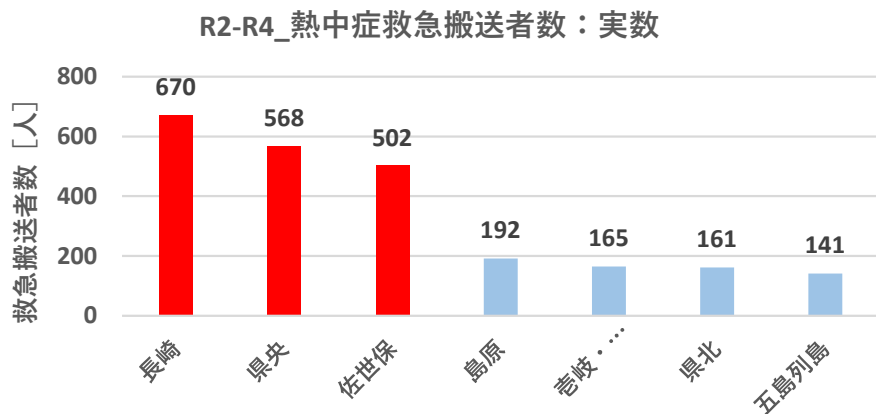
※南島原市においては市政出前講座に講師派遣
という形で参加

写真は、あかね会（一人暮らし
高齢者食事会：島原市）における講演の状況



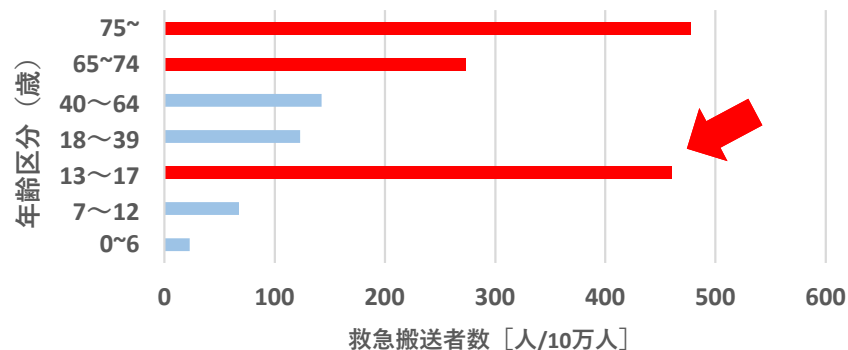
熱中症予防のための啓発 ～地域特性～

長崎、佐世保、県央



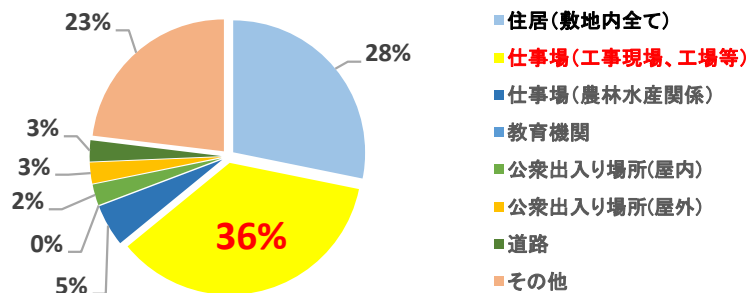
県央

年齢別_熱中症救急搬送者数（県央地区）



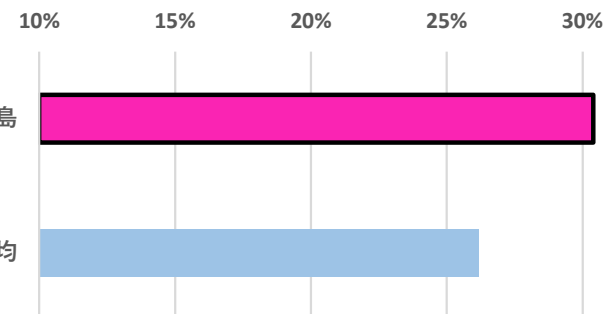
県北

18~64歳：熱中症の発生場所

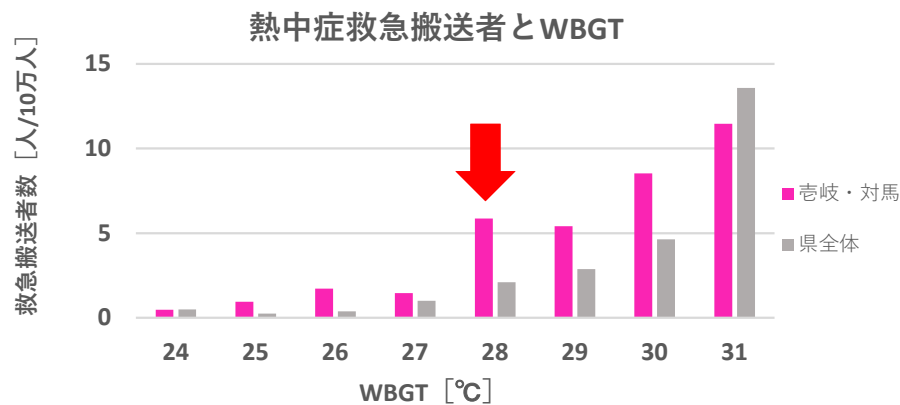


五島列島

WBGT_30℃以上の出現頻度（7-10月）



壱岐・対馬



◆県内7地域ごとに啓発資料を作成・HP上で公開

◆関係部局と連携し啓発資料の効果的活用

特に福祉保健部局

→福祉保健課との連携

・HPリンク：<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/anzen-anshin/saigainisonaete/kikikanri/neltutyuusyout/>

・ラジオ：Saturday chat box（7/8）☞県広報FM番組

・テレビ：みじかなナガサキミニ（7/15）☞県広報

→市町保健部局への周知・活用

→保健所への周知・活用

◆県教育センターと連携した教員対象の研修を予定

◆各種イベント・出前講座等で啓発を実施（随時）